

2022年5月23日更新  
(2020年8月31日発行)

紀尾井ホール・ステージマネジャー

## 紀尾井ホールコロナウイルス感染症対策ステージガイドライン

### ご入館にあたって

- ・必ずマスク（不織布マスクを推奨、フィルタ付きで鼻と口を覆うもの）の着用をお願いします。マスクは鼻と口をしっかりと覆い正しく着用してください。マスクをされていない方の入館はお断りします。フェイスガードやマウスガード、透明マスクのみのご使用はお断りします。マスクをしていない状態での会話は絶対におやめください。
- ・手指消毒・こまめな手洗いにご協力ください。
- ・37.5度以上の熱があるなど、風邪諸症状・体調不良等のある場合は、ご入館をお控えください。
- ・ティッシュ、ハンカチ、上着の袖等で口と鼻を覆う「咳エチケット」をお守りください。
- ・楽屋、舞台袖などでの三密の回避にご協力ください。

### ステージ上の基本姿勢

演奏者の距離	<p>公演形態における感染予防対策は以下の項目を検討してください。</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・鍵盤楽器、管弦打楽器(ソロやデュオ～室内楽、吹奏楽、オーケストラについても含む)</li></ul> <p>①ソロやデュオ～室内楽では、すべての演奏者は十分な間隔（最低1m）を保持してください。</p> <p>②舞台前方で管楽器の演奏を行う場合、舞台上の演奏者の位置から客席最前列までの距離について、最低でも水平距離で2m以上の距離を置くよう努めてください。それが困難な場合は、アクリル遮蔽板の設置などの同等の効果を有する措置を実施してください。</p> <p>③舞台上に多くの演奏者が出演する吹奏楽、オーケストラ等の場合は以下の点に留意してください。</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・指揮者は演奏者との距離を2m以上確保してください。</li><li>・トランペット・トロンボーンは前方の演奏者との距離を最低でも1.5m（可能な限り2m）を確保してください。</li><li>・演奏上または表現上の理由により演奏者間を従来の間隔で演奏する場合は、舞台上の換気の確保に一層留意し、練習時に楽器用マスクやアクリル遮蔽板を使用したり、リードを単体で吹いたり水抜きの際は布などで飛沫飛散を防ぐなど複数の手法を組み合わせることで感染リスクを下げるよう努めてください。</li></ul> <p>④指揮者・演奏者は舞台上で会話をする際はマスクを着用するか、2m以上の距離を確保してください。</p>
歌唱・合唱・オペラ	<p>①歌唱位置から客席最前列までの距離について、水平距離で最低でも3m以上の距離を置いてください。これが困難な場合には、アクリル遮蔽板の設置あるいはこれと同等の効果を有する措置に努めてください。アクリル遮蔽板等の準備、設置は主催者様で行ってください。</p>

	<p>②複数の歌手が出演する公演ではすべての歌手は最低でも1m以上の距離を保持し、近距離で向かい合うスタイルや、体の動きを伴ったり移動しながら歌ったりする演出は避けてください。</p> <p>③合唱が出演する公演では、歌手が原則として同一方向を向き、演奏途中で移動しないことを前提に、列の間が最低でも1mの市松模様状※1となるよう編成してください。これらが困難な場合には、マスクの着用等と、それらに応じた適切な対人距離※2を確保するなどの同等の効果の有する措置を講じてください。</p> <p>※1 結果として、歌手間の距離は、概ね前後2m、左右1mとなります。</p> <p>※2 歌手間の距離は、マスク着用の場合は概ね前後1m、左右50cm、フェイスシールド又はマウスシールド着用の場合は概ね 前後1m、左右1mとする必要があります。</p> <p>④声楽に伴う飛沫の飛散については、舞台上の換気の状態や湿度・温度等によりリスクが高まる可能性があることを十分に認識してください。</p> <p>⑤オペラ等の大規模公演については、適切な感染予防対策の在り方に関して判断を要しますので感染対策案をまとめて、事前に必ずご相談ください。</p>
リハーサル時	飛沫防止対策としてマスクの着用、咳エチケットの徹底など感染拡大防止に努めてください。
公演中	飛沫防止対策として、公演の妨げにならない範囲でマスクなどの着用を推奨します。
打楽器など	演奏中に移動を伴い、かつセッティングにより社会的距離を保つことが困難な場合、飛沫防止対策をし、演奏者の感染防止に努めてください。
管楽器	ステージ上、舞台裏、楽屋を含む全館で、唾やその他の液体で床面がぬれることを禁じます。処理は床接地面が防水処理されているペットシートなどを持参のうえ使用してください。シートの設置・処理は使用者が原則です。最終的にはご主催が責任をもって持ち帰られるか、決められた場所に廃棄してください。
必要に応じてご主催でご用意いただくもの	マスク、手袋、アクリル板、飛沫防止対策用品、消毒用品、管楽器などの水・唾対策用品（ペットシート）。

\* プロ団体、音楽事務所の主催公演では、それぞれ独自の研究に基づき考案・実証した感染拡大防止対策が提案されていますが、ホームページなどで十分に社会的周知や告知が行われているかなどを総合的に判断し、また、他団体の状況に照らして、再考をお願いする場合があります。ホール側の基本方針と明らかな相違がみられる場合は、協議の上、修正を求めることがございます。

\*アマチュア団体の場合も、プロ団体が作成したガイドラインを参考に感染症防止対策を講じてください。ただしホール側へは適宜ご相談ください。基本姿勢の順守を公演条件とさせていただきます。

#以上のことは情勢などを踏まえ、適宜見直しを行います。

\*出演者用のミネラルウォーター（ペットボトル）以外のケータリングサービスは当面の間中止させていただきます。

## 公演ステージスタッフについて

(音響・照明・舞台・収録・撮影・取材など、すべてのスタッフ対象)

①	ホール備品の設置、操作は原則ホールスタッフにて行います。仕込み、リハーサル、本番、片付け等でホール備品に触れる際は、 <u>作業前後で必ず手指の消毒</u> を行ってください。持ち込み楽器・備品については各演奏団体の方針を尊重しますので、極力各演奏団体側での作業としてください。
②	鼻と口をしっかりと覆う正しいマスク着用を徹底し、マスク着用下においても咳をする時には腕で口を覆うまたは下を向く等の咳エチケットも実践してください。
③	消毒に際し、塗装面の損傷の危険があるためホール備品には直接アルコール等を噴霧しないでください。消毒の際は必ず事前にホール側に相談してください。基本はご利用者の手指の消毒での対応をお願いします。
④	舞台監督・責任者はあらかじめ決められたメンバーのみで舞台進行作業を行い、それ以外の方がかかわることのないように管理を徹底してください。
⑤	特に収録スタッフは3密の防止に努めてください。作業者間は、必ず1 m以上の距離を開けてください。

## バックステージでの留意点

楽屋	楽屋は三密を避け、 <b>一人3㎡の占有面積</b> が基本です。楽屋定員は以下の通りです。 1、2、3楽屋：各2名 4楽屋：13名 5楽屋：8名 6楽屋：26名 人との距離は1 mを確保してください。定員を超える場合は交代で使用してください。対面での椅子・机の使用はしないでください。感染症対策としてできるだけ窓やドアを開け、一層の換気を行ってください。空気清浄機もご利用ください。
舞台袖	三密を避け、椅子などの備品使用はできるだけ共有しないようにしてください。本番前は特に注意が必要です。
消毒	演奏の前後で必ず手指の消毒を行ってください。備品の消毒が難しい場合は使用者自身の手指の消毒を徹底してください。
食事	三密を避け、 <b>十分な距離(1 m以上)</b> を保ち、事前に手指の消毒をきちんと行ってください。楽屋だけでなく、舞台袖もご利用いただけます。飲食ごみは原則持ち帰りをお願いします。
マスク	ステージへの出演直前までマスク着用をしてください。はずしたマスクは置き場所を決めて管理していただき、放置しないでください。ケースなどを使用することを推奨します。使用後のマスクはお持ち帰りください。
面会	面会は極力お控えください。 (事前のお約束の方のみとするなど、人数と時間を制限してください。)

このガイドラインは、情勢などを踏まえ、適宜改定します。

詳しくはホールスタッフにご相談ください。